

平成29年度 社会教育情報誌

「きばっど」 南薩の社会教育



平成30年2月発

南薩地区社会教育振興会



平成29年度 社会教育関係者・団体表彰



1 P T A関係

【日本P T A全国協議会表彰】

- ・大成小学校P T A (指宿市)

【県P T A連合会表彰】

- ・南さつま市P T A連絡協議会 (南さつま市)

【県P T A広報紙コンクール (平成28年度)】

- ・優秀賞 南指宿中学校P T A (指宿市)
- ・優秀賞 加世田高等学校P T A (南さつま市)
- ・佳作 万世中学校P T A (南さつま市)
- ・佳作 川辺中学校P T A (南九州市)

【県P T A「たのしい子育てコンクール(三行詩)」】

【中学生の部】

- ・佳作 浜田 ほのか (指宿市立山川中学校 2年)

2 公民館関係

【全国公民館連合会永年勤続表彰】

- ・井元 俊文 (指宿市立池田校区公民館主事)

【県公民館連絡協議会永年勤続表彰】

- ・辻本 重成 (元 枕崎市別府地区館主事嘱託員)
- ・四元 茂実 (元 枕崎市立神地区館主事嘱託員)
- ・遠山 文子 (元 枕崎市枕崎地区公民館福祉センター主事嘱託員)
- ・田中 靖子 (指宿市立中央公民館主事)
- ・西田 れい子 (指宿市立利永校区公民館主事)

3 地域学校協働活動関係

【文部科学大臣表彰】

- ・川尻小学校支援地域本部 (指宿市)
- ・坊津学園学校運営協議会 (南さつま市)

4 社会教育振興会関係

【地区社会教育振興会表彰】

- ・枕崎市立図書館 (枕崎市)
- ・上川路 澄江 (指宿市)
- ・上舞 啓一郎 (南さつま市)
- ・山崎 貴美子 (南九州市)

5 子ども会関係

【九州地区子ども会連絡協議会表彰】

- ・海江田 宗順 (南九州市)

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・青矢 順子 (南九州市)
- ・手養校区子ども会育成連絡協議会 (南九州市)

【優良少年少女団体表彰】

- ・茅野子ども会 (枕崎市)
- ・麓上・麓下子ども会, 迫北子ども会 (指宿市)
- ・益山校区山村子ども会 (南さつま市)
- ・ジュニア・リーダークラブかわなべ「なべ花火」 (南九州市)

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・東本町子ども会 (枕崎市)
- ・松原田子ども会育成会 (指宿市)
- ・益山校区山村子ども会 (南さつま市)
- ・小園 藤生 (南さつま市)
- ・長谷子ども会 (南九州市)
- ・早川 俊英 (南九州市)

6 読書活動関係

【子どもの読書活動推進優良校表彰】

- ・西指宿中学校 (指宿市)

【優良読書グループ表彰】

- ・金峰おはなし会 (南さつま市)

7 少年の主張鹿児島県大会

- ・優良賞 中村 光里 (枕崎市立別府中 2年)

8 地域が育む「かごしまの教育」県民週間ポスター・原画・標語関係

【ポスター原画】

- ・学 校 賞 枕崎市立桜山小学校
- ・学 校 賞 南九州市立大丸小学校
- ・最優秀賞 上籠 海晴 (南さつま市立笠沙小学校 6年)
- ・優 秀 賞 松木田 晴紀 (南九州市立勝目小学校 1年)
- ・優 秀 賞 台場 羅夢 (枕崎市立桜山小学校 3年)
- ・優 秀 賞 籠原 愛珠 (枕崎市立桜山中学校 1年)
- ・特 選 牛垣 琥太郎 (南九州市立宮脇小学校 2年)
- ・特 選 佐多 瑛 (南九州市立中福良小学校 2年)
- ・特 選 吉嶺 こころ (枕崎市立桜山小学校 5年)
- ・特 選 桐木平 歩 (南九州市立大丸小学校 5年)
- ・入 選 木浦 芯 (枕崎市立桜山小学校 3年)
- ・入 選 大坪 栞 (南九州市立大丸小学校 4年)
- ・入 選 東園 琉生 (南九州市立大丸小学校 5年)

【標語】

- ・最優秀賞 下窪 莉子 (南九州市立栗ヶ窪小学校 5年)

9 「家庭の日」絵画・ポスター・標語関係

【最優秀学校賞】

- ・枕崎市立桜山小学校

【優秀学校賞】

- ・南九州市立松原小学校

【絵画の部】

- ・優秀賞 廣瀬 あずき (指宿市立開聞小学校 3年)
- ・優秀賞 新留 悠真 (南九州市立大丸小学校 5年)
- ・優秀賞 入野 健盛 (指宿市立開聞小学校 6年)
- ・優秀賞 守永 かるも (指宿市立山川中学校 1年)
- ・優良賞 櫛山 瑠唯 (南九州市立中福良小学校 2年)
- ・優良賞 茅野 真琴 (枕崎市立桜山小学校 3年)
- ・優良賞 平山 真稀 (枕崎市立桜山中学校 2年)

【ポスターの部】

- ・優秀賞 福元 優 (枕崎市立桜山小学校 5年)
- ・優良賞 前田 夏月 (枕崎市立桜山小学校 5年)
- ・優良賞 城森 乃愛 (枕崎市立桜山小学校 6年)
- ・優良賞 橋元 佑月 (枕崎市立桜山中学校 1年)

【標語の部】

- ・優良賞 飯山 広大 (南九州市立別府小学校 4年)
- ・優良賞 和志武 芙羽 (南九州市立霜出小学校 5年)
- ・優良賞 河野 紘輝 (枕崎市立立神中学校 2年)



家庭の教育力の向上

【地区PTA役員研修会】

6月22日(木)川辺小学校体育館で、PTA連絡協議会理事、代議員、単P役員等約160人が参加して研修会が行われました。

まず、研修Ⅰとして、当所の谷山指導主事から「地区PTA連絡協議会努力点等について」の説明がありました。

次に、研修Ⅱとして、指宿市立図書館長でもあり「本と人とをつなぐ『そらまめの会』」理事長の下吹越かおる氏を講師に「読むことは愛すること」と題して講演及び読み聞かせの演習をしていただきました。

参加された方々は、グループごとに読み聞かせの仕方を体験したり感想を出したりすることで、皆さん自信を深められたようでした。読み聞かせは、小学校を中心に多くの学校で取り組まれています。今後役員の方々が、研修で得た読み聞かせの重要性や読み方のポイント等を広めながら、子どもたちの情操教育に一層資することを期待します。



講師
下吹越かおる氏



全員
〔読み聞かせの実演〕



代表者
〔発表〕

【地区社会教育委員研修会】



10月6日(金)知覧文化会館で、各市社会教育委員、各市教委生涯学習・社会教育担当者等が参加して研修会が行われました。

まず、県教育庁社会教育課社会教育係社会教育主事兼係長の中村智子氏に「地域ぐるみの家庭教育支援」と題して講演をいただきました。家庭教育を地域ぐるみで行うことの必要性、今後地域体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みとしての「地



域における学校との協働体制の在り方」について、熱い思いを話していただきました。〈中村智子氏の講演〉

次に、「つながりの構築と関係団体等の連携・協働による地域ぐるみの家庭教育支援」をテーマに、委員がグループに分かれ協議しました。グループ協議は昨年度に引き続きワールドカフェ方式で行われ、今回は「時代が変わっても、家庭教育で大切にしていきたいことは」という問いに、各グループがそれぞれの思いを活発に出していました。協議が進むにつれ、一人一人の思考が一段と深まっていくような雰囲気でした。その後、子育てをしている親にぜひ伝えたいことを一人一言書いていただきました。これらのメッセージは、今後いろいろな場面で活用させていただくつもりです。



〈ワールドカフェ方式によるグループ協議の様子〉

各社会教育委員の方々をはじめ、関係団体等の連携・協働による地域ぐるみの家庭教育支援が、今後より一層充実するとともに、それぞれの家庭の教育力がより一層向上することを期待しています。

【地区PTA母親研修会】

10月11日(水)枕崎市市民会館で、それぞれの校種に児童生徒がいる母親約160人が参加して開催されました。

研修1では、枕崎市教育委員会教育長の丸山屋敏氏に「今、子育てに必要なこと」と題して講演していただきました。家庭教育力の低下が叫ばれて久しい昨今、家庭の教育力を向上させるには子育てをしている親自身が、まずはモラルをしっかりと身に付けることの大切さを話されました。そして、我が子に接する心構えとして、失敗・挫折を見守る、我慢・辛抱する心を育てる、心の糧になる言葉を残す、親の生きる姿で教育する、読書好きな子どもにして考える力を育てるといった視点を示唆してくださいました。アンケートの感想には、「今の子育てを反省し、考え直す大事な機会となった」「参考になったことを他の人にも紹介したい」などが多く書かれており、丸山先生の話が参加者の心の奥まで浸みた様子が見られました。



研修2では、小学校13分科会、中・高・養護学校7分科会の計20分科会に分かれて情報交換を行いました。各



〈小学校の分科会〉

分科会でテーマを決めて情報交換をしていただきました。小学校の分科会では「朝食を中心とした家庭における食育」や「保護者の声かけの仕方」に、中・高・養護学校の分科会では「スマホ・メディアとのつきあい方」に話題が集中した分科会が多かったです。多くの方々が、他の保護者の話を聞いたことに大変満足した様子でした。



〈中高養の分科会〉

【地区子ども会大会及び育成者・指導者研修会】

6月17日(土)サン・フレッシュ枕崎及び立神中学校体育館で、地区内の小・中学生及び育成者・指導者等304人が参加して開催されました。



まず、他の子ども会活動及び育成者の模範となる功績をたたえ、本年度は、4子ども会本町(枕)、松原田(指)、山村(南さ)、長谷(南九)]と2個人(小園藤生氏、早川俊英氏)が表彰されました。次に、町区・福元区合同子ども会(指宿市)、山村子ども会(南さつま市)、長谷子ども会(南九州市)、板敷子ども会(枕崎市)が元気よく活動発表を行いました。

そして、子どもたちは立神中学校体育館で県レクリエーション協会の方々と様々なゲーム(レクリエーション)を行い、気持ちのいい汗を流しました。育成者・指導者は、サン・フレッシュ枕崎でKKBタレントのよし俣とよしげ氏に、「どうせ一度の人生だ 生きてるだけで まるもうけ」と題して講演していただきました。育成者・指導者の皆さんの笑い声が絶えない講演会となりました。



〈表彰者〉



〈活動発表〉



〈レクリエーション〉



〈閉会行事〉

【南薩・北薩地区ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会】



7月29日(土)～30日(日)の一泊二日で、県立南薩少年自然の家において、南薩及び北薩地区内の中高校生67人が参加して開催されました(大会は北薩と南薩の交互で、昨年度は薩摩川内市立少年自然の家で実施)。今回の大会テーマは「輪～shake our hand～」でした。活動1は「安全啓発・仲間づくり・レクリエーション」、活動2は「創作活動(七宝焼・塗り箸)」で思い出のお土産作り、活動3は「天体観察・ナイトウォーク」で、望遠鏡での天体観察による宇宙の神秘性に触れた後、友達との会話に花を咲かせ、活動4は「カヌー体験・しゃべり場」でカヌーを漕ぎながら協調性を味わったり、たくさんの人と交流しながらお互いをもっと知り合ったりする活動で大いに盛り上がりしました。

大会が終わった感想では、ほとんどの参加者が初めての体験に感動したり心に残るような人と人との繋がりを味わったりするなど、大会の趣旨が十分生かされた大会になったようです。



【地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会】

12月16日(土)南さつま市ふれあいかせだ「いにしへホール」で、地区内の子ども会員及び育成会員・指導者等113人が参加して開催されました。

まず、優良少年少女団体として5団体〔茅野子ども会(枕)、麓上子ども会・迫北子ども会(指)、益山校区山村子ども会(南さ)、ジュニア・リーダークラブかわなべ「なべ花火」(南九)]が表彰されました。次に、南九州市教育委員会社会教育指導員の満永真理氏を講師に安全教育研修会が行われました。そして、南さつま市市民大学講座の講師でもある波木井緑氏を講師に、ちぎり絵を使った年賀状作りの創作活動が行われ、創意工夫を楽しみながらほのぼのとしたものになりました。



表
彰



安
全
啓
発



ち
ぎ
り
絵



人権教育の充実

【地区社会教育・文化財・社会体育行政研修会】



5月10日(水)知覧文化会館において、地区内の各市教育局社会教育・文化財・社会体育の行政担当者等60人が参加して研修会が行われました。全体会では、「平成29年度県・地区の重点施策」について、南薩教育事務所の各担当から説明がありました。その後、行政関係者を対象とした人権教育講演会が開かれました。

人権教育講演会では、部落解放同盟鹿児島県連合会財務委員長の下村昭雄氏に、「同和問題の現状と課題」と題して講演していただきました。県内の差別事例を紹介していただき、これまでの差別解消に向けた取組がまだ十分とは言えない現実、部落差別解消推進法施行後も十分に認知されていない現実から、特に行政関係者が現状を正しく認識するとともに、多くの人々に周知させていく必要性を説いた講演会でした。



〈下村昭雄氏の講演〉

アンケートから、行政関係者でも差別事象の現実や部落差別解消推進法についての知識や理解を十分に備えているとは言えず、改めて人権問題への真摯な対応や自己研鑽の重要性を深く再認識した様子が見られました。

【地区自治公民館経営研究会及び人権教育ブロック別研修会】



〈川畑真英氏の講演〉

9月1日(金)知覧文化会館において、各市の自治公民館関係者及び社会教育関係職員等188人が参加して行われました。今回は、県教育庁人権同和教育課指導主事の川畑真英氏に「みんながホッとする社会をめざして～人づくり・まちづくりの人権教育～」という演題で講演していただきました。



まずは導入で、目の錯覚を利用した絵図や事前に各自選んだ各種フルーツ味のキャンディーをもとに、人の中に存在する「思い込み」を認識することから始まりました。そして、相手の気持ちを知ることと自分の気持ちとを重ねることで「共感」が生まれ人間関係が縮まることを、いろいろな場面を通して分かりやすく実感させていただいた講演でした。



〈会場と一体に〉

参加者からの感想として、「とても勉強になり来て良かった」「理解がまだまだ足りなかったことを思い知らされた」「普段、無意識に差別していないか考えさせられた」「人権というとなんか難しいと思っていたが、私も大切、あなたも大切でよく分かった」「今後もこのような学習会を続けるべきと思った」などの声が聞かれました。



活力ある地域づくり

【地区自治公民館経営研究会及び人権教育ブロック別研修会】

9月1日(金)知覧文化会館で行われ、各市公民館関係者・社会教育関係者188人が参加した。今回のテーマは、「ふるさとの伝統を継承する自治公民館の在り方について」だった。最初に、南さつま市大浦自治公民館連絡協議会会長の村田敏雄氏が「ふるさとの様々な伝統文化を継承していくためには」と題して、大木場地区に伝わる「山神(ヤマンカン)祭り」(履手が、両方で60kgの大草履を履いて鳥居から拝殿まで歩く)「お伊勢講」(男性が花嫁姿になりご神体(女の神)を持ち、その後に顔や身体全体を面白おかしく仮装した『おん化』と呼ばれる人たちが続き自治会内を歩く)の取組状況について、パワーポイントで大変分かりやすく発表されました。



〈パワーポイントで分かりやすく発表〉

アンケートからは、「初めて知る行事だった」「過疎化が進む中、伝統文化存続活動への大変なご苦労が分かる」「伝統行事の継承は難しいが、大切なことだ」「少子高齢化が進み、どの地域も同じような悩みを抱えている」といった声が多く挙がっていました。多くの地域が過疎化、少子高齢化、自治会加入率の減少等、

〈発表する村田敏雄氏〉



大きな課題に直面しています。今後ともみんなで見守りを出し合いながら、活力ある地域づくりを進めたいものです。

【地区文化財保護審議会委員等研修会】

5月31日(水)指宿市考古博物館時遊館COCOはしむれにおいて、地区文化財保護審議会委員等研修会が開催されました。各市の文化財保護審議委員、県文化財保護指導委員、各市文化財行政担当者等40人が参加し、文化財の保存・活用の充実について研修を行いました。



〈研究協議〉



〈指宿市の文化財紹介〉

午前中は、枕崎市の山崎盛隆委員の研究・事例発表「枕崎市の郷土芸能について」を踏まえ、各市文化財の保存・活用充実等について協議を行いました。その後、午後の現地研修に先立ち、指宿市教委の鎌田洋昭文化担当主幹に、「郷土芸能の継承に向けて～指宿まるごと博物館構想の取組～」の文化財紹介をしていただきました。郷土芸能は地域によって特色が異なることから、枕崎市の発表には興味を持って聞き入る方々が多いでした。また、指宿市が学校との連携やDVD収録等の工夫で伝統芸能を継承していることに感銘を受けていたようです。

午後からは、県教育庁文化財課の講話「平成29年度文化財保護行政の重点施策等について」と現地研修を行いました。車で山川港まで移動し、時折小雨が降る中、貿易港として栄えた山川港近辺での文化財で研修しました。参加者は3班に分かれて、「山川薬園跡及びリュウガン」「河野覚兵衛家墓石群」「旧正龍寺跡墓石群」「地頭仮屋跡石堀」「石敢當」「河野覚兵衛家屋敷跡(石垣)」「西南戦争戦没者招魂碑」の文化財について、指宿まるごと観光ガイド3人から詳しく説明していただきました。

枕崎市・指宿市文化財の保存・活用に関わっている関係者の苦勞や熱意が、参加者に伝わる研修会でした。



〈観光ガイドさんと共に〉



【地区「指定文化財」巡回視察】

9月15日(金)、県文化財保護指導委員、各市文化財行政担当者、南薩教育事務所の14人が参加して、南さつま市の文化財を視察しました。4市(枕崎市・指宿市・南さつま市・南九州市)を輪番で行っています。この視察の趣旨は、「管内の市教育委員会が管理している指定文化財の保護・活用の実態を把握し、個々の課題について共同研究を行うことにより、文化財の保護・活用に資する」というものです。

今回は、万之瀬川河口域のハマボウ群落及び干潟生物群集(天然記念物)、金峰町宮崎の田の神(有形民俗文化財)、高橋貝塚(史跡)、歴史交流館金峰(展示)、常珠寺仁王像(史跡)、柗ノ原遺跡(史跡)、一乗院跡(史跡)、杉戸(有形文化財：絵画)、扁額(有形文化財：工芸品)、坊津一乗院聖教類等(有形文化財：古文書)、坊津(名勝)、加世田再撰帳(有形文化財：古文書)を視察しました。特に、有形文化財の保存・展示の在り方、修復中での課題については現地を巡りながら意見交換しました。

南さつま市教委生涯学習課文化係の詳細な説明や参加者からの質問等の交流を通して、貴重な文化財を保護・活用することの大変さを改めて認識する機会となりました。



〈開会行事〉



〈歴史交流館金峰での展示〉



〈常珠寺仁王像〉



〈柗ノ原遺跡〉



〈絹本著色八相涅槃図〉



かつお釣り体験アドベンチャーの取組

月日	主な活動内容
7月12日	・事業説明 ・前回の様子の視聴
7月18日	・役割分担 ・準備物の確認
7月20日	・実習船での学習 ・かつお釣り模擬体験
7月25日	・枕崎近海での釣り体験 イサキ、マダイなど35匹
8月17日	・かつおさばき実習 ・鰹料理作り ・まとめ

枕崎市内の中学生9名が参加した「かつお釣り体験アドベンチャー」。この事業は、鹿児島水産高等学校の実習船「拓青」に乗り、カツオの群れである“群(なぐら)”を追う研修です。

今年は残念ながら天候の影響により口永良部島近海での釣り体験研修は枕崎沖での一日の実施になりました。それ以外に“一本釣り模擬体験”や“かつお料理作り”にチャレンジし、枕崎でしか味わえない、枕崎らしい体験に感動し、充実した研修を堪能しました。

参加生徒から「協力する大切さや食のありがたみを知ることができました。すごくいい経験ができた研修でした。」などの感想がありました。



大きな魚を釣り上げ大満足



魚さばきもだいふ
慣れてきました

P T Aの充実に向けた取組（市P連役員研修会）

8月25日(金)に枕崎市市民会館で枕崎市P T A連絡協議会役員研修会が行われました。

各学校におけるP T A活動のさらなる充実を図るために研修会は行われ、丸山屋敏教育長による講話、7月に実施した家庭教育についてのアンケート結果をもとに本市の家庭教育の状況報告が事務局からありました。

その後、グループに分かれて意見交換を行いました。「みんなが楽しいP T A活動にするためにP T A役員として何ができるだろうか」というテーマのもと、ワールドカフェ方式による協議が行われました。新たな方式での協議に、活発で熱のこもった意見交換が行われ、時間が足りなく感じる60分でした。最後のまとめとして、「明日から役員としてできること」を一人一人に書いてもらい、「声かけを行って参加しやすい環境をつくる」、「自分たちがまず楽しむこと」などの意見が出されました。



教育長による講話



グループでの協議

明日から役員としてできること

- ・たくさんの保護者に声かけや話をする
- ・声かけ
- ・知り合いの人に一緒にP T Aに行こうと声をかける
- ・もっと笑顔で声かけ、あいさつ
- ・声をかけあい参加しやすい感じにしてい
- ・久しぶりにP T Aに来た人に声をかける
- ・声かけをして一緒に参加する
- ・P T A会員に声をかけて仲間（輪）づくりをする（参加率UP↑↑↑）
- ・声かけを行って参加しやすい環境をつくる
- ・若い父親たちへの声かけ（一緒にやろうよ!!）

- ・情報の共有
- ・情報の伝達・復命
- ・P T A理事会で今日話したことを伝え、いま実施している活動のよさを広げる

- ・飲み方をする

- ・現役員が役員としての立場を楽しめるようにする
- ・力まず、頼るところは頼って楽しく活動していきます
- ・自分たちがまず楽しむこと
- ・自分たち（役員）が楽しむ
- ・P T A役員せつかくやるなら楽しんでやろう
- ・子どもと一緒に楽しむ
- ・P T A役員を経験して、よかったことを保護者の方に話をする

- ・先生方やP T A役員、P T A会員、子どもたちとできるだけ話をする
- ・会長や保護者とのコミュニケーション
- ・保護者の意見を学校へ吸い上げるパイプ役

- ・普段の学校の様子を学級P T Aでビデオ等を活用して紹介する

- ・自分にできることを考える



指宿市の取組

赤ちゃんに絵本をプレゼント 読書推進のためのブックスタート

指宿市は、読書推進のためのブックスタートを平成 29 年 8 月から始めました。

絵本の読み聞かせを通して、赤ちゃんと保護者がお互いに心を通わせ、楽しくあたたかいひとときを過ごすことと、乳児期から本に親しむ習慣を身につけるきっかけづくりとなることを願って実施しています。

■ 対象

市内に住所を有する平成 29 年 4 月 1 日以降生まれの子で、
乳児(3～4ヶ月)健診を受診した子

■ プレゼントの内容

- ・ 絵本 1 冊(6 冊のうち 1 冊)
- ・ コットンバッグ
- ・ アドバイスブックレット

■ 本を受け取るには

- ① 乳児健診を受診する
- ② 指宿図書館または山川図書館で行われる読み聞かせイベントに参加する
- ③ 読み聞かせイベント終了後、プレゼントを受け取る

■ 読み聞かせイベント

- ・ 指宿図書館：えほんのひろば 毎週火曜日 10 時 30 分～11 時 15 分
- ・ 山川図書館：ボランティアおはなし会 第 4 土曜日 14 時～14 時 30 分



指宿まると博物館による郷土芸能の後継者育成

指宿市では、指宿まると博物館実行委員会と連携し、文化庁補助事業を活用して、市内の郷土芸能保存会の会長や会員を対象に、各郷土芸能保存会の現状把握と抱えている課題を整理し、課題解決方法について学ぶ講習会を実施しました。

指宿市郷土芸能保存会がファシリテーター(会議の議事進行を中立的な立場で専門に行う人)を招聘し、講習会を通して、各保存会が「後継者不足」と「保存会の維持・継承」の課題解決に取り組める人材を育成し、その人材が後継者を増やし保存会の活性化に寄与できるようになることを目的としました。

講習会は、11 月 6 日(月)・13 日(月)・20 日(月)の午後 6 時 30 分から 8 時まで実施し、24 保存会合計 33 人が参加しました。

講習会の内容は、後継者育成に成功している保存会の事例発表や、各保存会が抱える課題を明確にし、ファシリテーターによって、課題解決に向けての意見やアイデアが引き出されました。

各保存会の会員が 6 つのグループに分かれ、活発な意見を出し合い、模造紙に整理し意見発表をしました。会員は、3 回の講習会を通して、各保存会が抱えている課題を整理し、その課題解決のための方法を見つけ出したようです。実際に、後継者を増やすために地域の総会や文化祭、敬老会の場で声かけをし、保存会の加入促進に成功した事例もありました。

今後も引き続き、平成 28 年 3 月に策定した指宿市教育大綱の「施策の重点事項」にある「指宿まると博物館を活用した人づくり」を推進し、郷土芸能保存会の保存・継承を図っていきます。





家庭教育の更なる充実のために！

南さつま市では、「社会教育委員の会・公民館運営審議会」の提言を受け、昨年度から新規事業として「思い」を伝えるメッセージ大賞を実施しています。三十九文字に「サンキュー」と心を込めた文章は、市内の小・中・義務教育学校や高等学校・特別支援学校・保護者から、親子間はもとより、祖父母やきょうだいとの強い絆を思わせるメッセージが数多く届きました。

この事業は、当審議会が多様化する家庭教育の支援のあり方について、二年間に亘って審議を重ねて実現しました。どの作品も、日頃は口に出せない素直な「思い」を綴ったもので、偽りのない心情を伝えつつ、家族の温かい心づかいが感じられました。子供を取り巻く家庭環境は千差万別で、そこには家庭の数だけドラマがあります。親子間の心の「ずれ」を埋めようと、真心のメッセージが「かけはし」となり、より一層深い愛情を感じながらもぶつかり合ってしまうこともあります。この、悶々とした心の変動に「自己反省、思いやり、感謝」で綴られた作品が、今まで気づかなかった子供たちの成長を実感することと思います。

これからの家庭教育の更なる充実のために、この作品集を輪読したり、感想を述べ合ったりして、温かさと、厳しさと、感動のある家庭づくりのきっかけになれば幸いです。



＜南さつま人 心輝け 市民フェアでの掲示＞

＜第2回「思い」を伝えるメッセージ大賞作品集＞

人権意識を高めましょう！

南さつま市では、「差別をなくし ともにささえ合うまちに ーみんなで 高める 人権尊重意識ー」のスローガンのもと、市民一人一人が、同和問題をはじめとする様々な人権問題についての理解と認識を深め、それぞれの人権意識を高めることが重要であることから、毎年、人権尊重標語コンクールを実施し、鹿児島県の「人権同和問題啓発強調月間」である8月には、人権教育講演会を開催しています。

8月5日(土)に開催予定の人権教育講演会は、台風5号接近により中止となりましたが、当講演会で行う予定でした人権尊重標語コンクールの表彰式を8月31日(木)に開催しました。今年の人権尊重標語コンクールは、市内の小・中・義務教育学校・一般の6人が入賞し、最優秀賞は金峰中3年の安留龍斗さんが受賞しました。入賞した作品は、ポスターにし、8月の「人権同和問題啓発強調月間」、12月の「人権週間」に人権啓発ポスターとともに南さつま市民会館等に掲示しました。

今後も、市民の人権意識を高めることができるよう人権教育を推進していきたいと考えています。



＜人権尊重標語コンクール受賞者の皆さん＞



＜人権週間の掲示(南さつま市役所)＞



図書館の新たな取組

平成 28 年度から、地域の小学校・幼稚園等での初めての読み聞かせに不安を持つ保護者や一般の方を対象に、年 3 回程度「はじめての絵本読み聞かせ講座」を始めました。「絵本や紙芝居の選び方が分からない。」「本の持ち方や読み方はこれでいいの?」との声に応えた講座です。参加された方からは「初めてで不安でしたが分かりやすかった。」等の言葉がありました。

また、絵本作家を招いての「読書のつどい」を例年開催してきましたが、平成 29 年度は科学本を書かれています柳田理科雄先生を招いて、実験を中心とした講演会を開催し、図書館には小説以外の本もたくさんあることを知ってもらいました。会には 220 名以上が集まり楽しい講演会となりました。遠くは種子島からの方もあり、先生の人気にもびっくりしました。

さらに、南九州市立図書館の郷土研究誌「薩南文化」発行記念に伴う文化講演会を、南九州市文化財課などの協力を得ながら開催しました。第 1 回は鮫島正道先生による小・中学生向けの「南九州市の水辺の生き物観察」と、学芸員による大人向けの「南九州市の伝統と史実」、第 2 回は学芸員による「ある中隊長の西南戦争」など、年 3～4 回講座です。南九州市のことを学べるだけあって、参加された方からは、「このような講演会はなかったので話を聞けてよかった。」「次の講演会も楽しみ。」等のうれしい感想がありました。図書館職員のレファレンス力にもつながる講演会でもあるので、今後も開催していく予定です。



南九州市民大学講座

南九州市民大学は、楽しい講話などに触れることで自分を見つめ直し、心豊かな生活を目指そうとするもので、年 6 回、各方面から多彩なゲストをお迎えし開催しています。

昨年度は、フリーアナウンサーの宮原恵津子さんをはじめ、お笑いタレントのゴルゴ松本さん、九州初の女性町長及び福岡県男女共同参画センター前館長の中嶋玲子さん、本年度は、たくちゃんでおなじみ MBC タレントの野口たくおさん、県出身で北京オリンピックメダリストの宮下純一さん、同じく県出身落語家の林家彦いちさんなどをお迎えし、笑いあり、感動ありの 90 分間を楽しんでももらいました。

年度初めに、各世帯へのチラシにより受講生を募集し、潁娃・知覧・川辺の各文化会館で申込み受付を行っています。本年度受講生 330 名のうち約 150 名は知覧在住で、地域により差があるようです。この講座が合併前から旧知覧町で取り組まれていたことと会場が知覧文化会館であることによるのではないかと考えています。なお、受講料は年間 2,000 円、当日券は 1,000 円となっています。

最近では受講生が高齢化し、受講者数が減少してきていることから、若者が関心を示し、今後も継続できるためのゲストや講話内容などの選定が課題となっています。



枕崎市

かいしよくそうきょう

海蝕双橋

H29.4.21 県指定

海蝕双橋は、枕崎市火之神公園の平和記念展望台を海岸に降りて約 200m 西側にあります。

この一帯に分布する数百万年前の南薩層群の凝灰岩で形成された海蝕双橋は高さ 10m、幅 12m、東西洞門とも高さ 6m で波浪による浸食作用によってできたもので、現在も浸食が続いています。2 連になった橋状の海蝕洞は日本では報告例がなく、自然が作り出した芸術として文化的価値が高いものです。

この海蝕双橋は東から見ればゴリラの背中と後頭部、西側から見れば胸と顔に見えることも特徴として挙げられ奇岩でもあります。

なお、西側から見る場合、洞門の下を通り抜けなければならぬ干潮を待たなければなりません。ただ、満潮時や荒天時は危険ですので注意が必要です。そこからは、枕崎市のシンボル「立神岩」も望めます。



〔県指定天然記念物〕

かいしよくそうきょう
海蝕双橋



指宿市

しものかどさるのこおどり

下門猿の子踊り

H29.2.23 市指定

顔を真っ赤に塗って親猿や子猿に扮した子供たちが、笛・太鼓・鉦の音色と猿使いの口上にあわせて、面白可笑しく芸をする郷土芸能「猿の子踊り」。指宿市では上野と下門、2つの地区に伝わっています。今回は、平成 29 年 2 月 23 日に市指定文化財に指定された「下門猿の子踊り」を紹介します。

「下門猿の子踊り」は、江戸時代、今和泉の領主 島津忠郷が日向で旅芸人の猿使いの芸を見て非常に感心し、春秋 2 回猿使いを連れてきて、領民の労をねぎらったことが由来と伝えられています。猿は田の神の使いと考えられていることから、豊作を祝う意味も含まれているという説もあります。

以前は下門地区の男子だけで踊っていましたが、子供の数が少なくなり活動を休止していました。平成 26 年、保存会と PTA・学校が協力し、下門地区に限定せず、池田小学校に通う男女児童を踊り手として練習を重ね、復活を実現。地域一丸となり継承活動に取り組んでいます。

現在、池田小学校の運動会や、イッシー祭り、指宿市内の文化祭などで、日ごろの練習の成果を発表しています。



新 市指定文化財「下門猿の子踊り」

南さつま市

さむらいおどり にせおどり ちごおどり 士 踊 (二才 踊, 稚児 踊)

S 36.12.20 県登録

士踊は島津忠良ゆかりの踊りで、大人が中心に踊る「二才踊」と地元小学校(加世田小学校)児童による「稚児踊」の2つで構成され、毎年7月23日に竹田神社に奉納されています。

踊りの由来については、江戸時代の地誌である文政7(1824)年の「加世田名勝史」によると、島津忠良が歌を作り、息子である島津貴久の戦の労苦をねぎらうために踊られ、貴久の死後はその息子である義久・義弘によって6月23日(旧暦)の貴久の忌日に日新寺(現在の竹田神社)に奉納されたと書かれています。

また、「二才踊」は出陣の際に志気を高め、踊りにより忍者や紛れ込んだ敵を見破る事ができたと伝えられています。

「士踊」が奉納される7月23日は、竹田神社の夏祭りが開催され、南さつま市の夏の風物詩となっています。



稚児踊



二才踊

南九州市

かねやますいしゃ とどろきせいれんじょ あと 金山水車(轟 製錬所)跡

H29.4.21 県指定

明治の終わりにから昭和の初めにかけて操業していた宮内鉾山轟製錬所跡です。南西に直線距離で約8キロメートルのところにある赤石鉾山(現在も操業)などから、荷馬車で運ばれた金・銀鉾石を水車の力を使って細かく砕いて、金や銀を取り出す製錬を行っていました。

平成26年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターが行った発掘調査により、川から引いた石積の導水路や石垣、阿多溶結凝灰岩をくりぬいて造られた深さ約3.5メートルの水車坑など、製錬所に関連する遺構が見つかりました。これらは保存状態もよく、当時の様子を伝える貴重な産業遺産であると評価され、現地に保存されることになりました。現在は遺構の保護のため、土のうを使って埋め戻しています。

鹿児島では、江戸時代から製鉄・鉾山開発・火薬製造・紡績・骨粉製造などの産業に水車動力が盛んに用いられており、明治維新などわが国の近代化の原動力となりました。

現在でも産業だけではなく伝統芸能として、豊玉姫神社・武田神社で行われる「水車からくり」(国選択無形民俗文化財)にその技術が伝わっています。



東側からの光景



石垣・水路遺構